

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500285		
法人名	ケアハートガーデン株式会社		
事業所名	中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家		
所在地	岐阜県中津川市手賀野321番地		
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果市町村受理日	令和8年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2191500285-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 普段からご利用者様の体調面、心理面などで変化があった場合に家族様に逐一報告。何かあった時にすぐに対応していただけるように信頼関係の構築に努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、今年度の7月に運営母体が変わっている。新しい法人での体制となったが、職員はサービス低下につながらないよう知恵を絞りながら、利用者と家族が安心できるよう、支援に取り組んでいる。職員数は基準配置を満たしているが、これまでの職員数より人員削減されており、家族からは、今まで通りの支援が可能なのかと心配する声も挙がっているが、利用者が穏やかに生活できるよう、職員は明るく支援に取り組んでいる。今後、困難な事例が発生することも予想できるが、職員は、利用者が笑顔で過ごせるよう、家族との信頼関係作りにも努めている姿勢が見える。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を元に社会常識や社内ルールが話し合えるように常にスタッフ同士も「共に」を大切にしている。	運営理念を玄関と会議室の職員の目につきやすい場所に掲示している。利用者や家族と共に、喜びや安心を分かち合えるよう、共に過ごすことを大切に支援することを全職員の目標とし、理念を共有しながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、盆踊りのお誘い、参加、地域清掃参加の継続。今年も隣人から一輪車いっぱいの黒うりをいただいたり干支の飾り物をいただいた。ラジオ体操の最終日には記念品を利用者様から子供たちに手渡してもらった。	近隣との付き合いを大切に、盆踊りや夏祭りに参加している。駐車場を子どもたちのラジオ体操の場の提供を継続している。事業所周りの清掃活動なども行っている。今後も、さらに地域密着型サービス事業所としての取り組みを進める方針である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、近隣の方、区長様、家族様が参加して下さるようになり、相互理解、サービス状況の説明が出来ている。行政からは地元福祉科の高校生の介護施設就職に繋がる様な取り組みを発信してもらっている。	運営推進会議には多くの人が参加し、事業所の現状報告、今後の取り組みなど意見交換を行っている。運営の母体の変更し、見直しの部分が多くあることなど説明している。全家族に議事録を送付し、次回参加できる家族を要請している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設で転倒～入院事案、または入院されなくても受診～処置があった場合は速やかに行政の担当部署に事故等発生報告書の提出をして実情を伝えている。	運営推進会議に行政も参加しており、他のグループホームの取り組みや地域高齢者についての報告を受けている。意見交換や質疑応答等で協力を得ている。日常的にも困難事例の相談や空き情報等で協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会議の場で法定研修を行う事により、スタッフの理解は深まってきた。時々身体拘束になりかねない事案を管理者が見たり聞いたりしたら都度周知するようにしている。	身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。身体拘束の有無を確認、緊急やむを得ない場合の要件の再確認、不必要なセンサーマットの撤去検討等を話し合っている。スピーチロックにならない声掛け方法を学び、チームとなって正しいケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の定期的な虐待防止研修に必ずリーダー以上の人間が出席するようにし、研修報告書をもとに職員に感想を提出してもらい、さらに会議で勉強会をし議事録にまとめて虐待防止に努めている。また、職員へのアンケートも継続している。	リーダー以上の職員が市の虐待防止研修に参加している。研修報告書を全職員で共有し学んでいる。虐待防止委員会も定期的に開催し、様々なケア場面で虐待にあたる事例はないか、自覚をしているかなど、話し合っている。職員アンケートにて、意識強化と振り返りに活かしている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に伝える機会を作っていきたいと思っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面と口頭で細かく丁寧に説明している。入居後も問い合わせがあった場合には説明させていただいている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の再開によりご家族の意見・要望を聞ける様になり、ケアプランの説明にも来設いただいで、その内容を職員にも承知している。家族様から何らかの意見があった時に書面にして会議の場で職員に周知し、今後の対応を検討するようにしている。	利用者の暮らしぶりが分かる便りや月次報告書を家族に送付している。また、家族とのSNS連絡システムがあり、個別の情報を共有している。状況に応じて、電話やメールでも説明し、家族の希望や要望に沿った支援を行っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業承継により、現在の会社では職場懇談会の機会が今のところ無いが、人員配置の部分で変更点があるため職員の意見も都度管理者が聞きながら全員に展開する機会を設けている。	管理者も職員と共に現場に従事し、意見や提案を聞きながら、改善につなげている。運営法人が代わり、現在は職場懇談会を行っていないが、人員配置による不備が起こらないよう、職員全員で協力し合い利用者への支援に取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	上記と同じく事業承継により、職場環境が変わったが何とかモチベーションが落ちないように出来る範囲で整備に努めている。	法人の事業承継により、まだ、運営方針が十分浸透できていない。代表やエリア担当者を変えて話し合い、職員のモチベーションを高められるよう職場環境の整備に取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中津川市で身体拘束虐待防止研修など、外部研修に参加する機会があった。	現在、認知症介護に関する研修を新人職員が受講している。新たな職員配置が整ってきた際には、さらに働きながらトレーニングできるよう、勤務時間に配慮し、年間研修計画に沿って実践していく予定としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	引き続き中津川市のGH部会へ出席している。面会、外出の状況や介護ソフトの導入状況、救急搬送時の対応はどのようにしているかなど毎回議題は多岐にわたり展開され、ためになっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることをお願いしてやっていただいたり排せつ介助にも一層の気を配り、本人本位を大事にして、日々過ごしていただいている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、ご利用者様の動向に注視。時には行事を通じてご利用者様と密に接して、ご利用者様の思いや出来ること、出来ないことを探り、ニーズをキャッチするようにしている。	職員は、常にゆとりを持って利用者に寄り添う支援に努め、本人が安心して思いや意向を伝えやすいよう雰囲気づくりを心がけている。利用者の言葉を職員間で共有し、家族の協力も得ながら、思いを叶えられるよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、計画作成担当者を中心に、ケアプラン更新に向けて課題の抽出、家族様、本人様の意向確認、モニタリングを経て現状に即した介護計画を作成している。完成したケアプランは家族様に来設いただき、内容説明、確認の上サインをいただいている。	介護計画は、事前に家族の意見や利用者の意向を把握し、関係者と話し合いながらチームで作成している。介護計画の内容は家族に説明している。現状に即さなくなった場合は、見直しを行い適切な実践につなげている。	介護計画作成会議は、出来る限り、日程を調整した上で、家族の参加を得て、行ないたい。利用者の普段の様子を見ながら、担当職員と意見交換し、家族と共に利用者を支える関係作りを期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式24時間生活変化シート(D-4)使用し、気づきや工夫を記入すると共に再度申し送り、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かす事が出来ている。	センター方式を活用し、利用者の日々の様子やケアの結果を記録している。勤務交代時の申し送りで、連絡事項の記録漏れや口頭での伝言に間違いのないよう努めている。気づきや目標達成なども職員間で共有し、介護計画見直しの参考にしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	チーム(ご利用者、ご家族、医師、職員)で都度情報共有、支援できるようにしている。	家族の希望で、利用者の買い物や受診同行など支援している。利用者の状態に応じて、必要な福祉用具の選定についての相談等、柔軟に対応している。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお茶会は、機会とタイミングが合わず実現していない。来年は自立度の高い方と防災訓練に参加したいと思っている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近年、複数の病院にかかっておられる方が入居されることが多く、他科受診も多い中看護師を間に往診医と家族様、施設の関係を築く事が出来ている。	契約時に、かかりつけ医について説明し、利用者・家族の同意を得ている。複数の病院を受診する利用者も多い。協力医の往診が定期的であり、看護師が利用者の日常の健康管理を行いながら、医師と連携を図り、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院後の受け入れ等、医療機関の退院調整部門との情報交換を行ったり、入院中にも連絡を取り合っている。病院と情報提供書の取り交わしをしている。	入退院時、医療機関との対応は家族と相談しながら、管理者や看護師、ケアマネジャーが行っている。早期に退院が出来るよう、病院と情報交換しながら事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの経験はない。家族様に重度化に向けての意向や終末期はどのように希望されているのか聞き取りをしている。他のサービスの提案などを行っている。また明らかに状態が悪くなったり、入退院にて状態が変わってしまった場合、意向確認書をお願いしている。	重度化や終末期の対応について、家族・利用者に説明している。利用者の状態変化時には早い段階で関係者が話し合っている。事業所は、終末期に向けた支援は行っていない為、本人・家族が不安のないよう、他サービスの提案や情報を提供している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応の研修や常に注意事項等のアドバイスを受けている。管理者が応急手当普及員講習を受け、修了したため、早い段階で応急手当の訓練を行いたいと思っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時を想定しての訓練の実施、またその後の訓練をしてみようだったか、災害時に何が重要だと思うか全職員にアンケートをとっている。	年2回通報訓練及び避難訓練を実施し、運営推進会議で報告、助言を得ている。避難経路の確認、3日分の非常食と飲料水を備え、点検と補充を行っている。地震水害対策についての話し合いも行っている。	災害時においては、近隣の理解と協力体制が必要である。防災訓練を行う際には、近隣住民に文書で周知し、地域の防災訓練には事業所として参加するなど、双方で防災対策強化に取り組みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入らせていただく時は本人様への声掛けを徹底している。トイレ時、プライベートな空間である事をしっかり心掛け、言葉かけの内容を選んでいる。	職員は、利用者の笑顔と笑い声が聞こえる支援を行うよう心がけている。トイレ、浴室、居室はプライバシーを守れるよう環境を整え、常に利用者の人格を尊重し、誇りを損ねない対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床準備時、食事時、就寝時などいかなる場面でも「どちらが良いか」「どれが良いか」と自己決定を促している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様がしたい時にしたい事が出来る様、しっかり言葉を聞き、希望に添って支援している。それぞれが過ごしやすい様に考えるようにしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業承継により食事準備時間の短縮を余儀なくされ、汁物の具材を簡素化している。野菜の購入も無しにした。誕生日や季節ごとのイベントは変わらず希望食の提供であったり、季節を感じられる食事を提供している。	事業承継により、食事は配食サービスを活用している。利用者の状態に適した食事形態で提供している。イベント食は利用者の希望を聞き、季節感や楽しみとなる献立に心掛けている。おやつは利用者も一緒に作っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなかなか摂れない方でもどうしたら飲んでいただけるか、工夫をしている。食事量、水分量の記入も随時行い、少なかったりしたらすぐに職員と共有している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で口腔ケアが出来ない方には介助にて口腔ケアを行っている。 就寝前には義歯を洗浄剤に浸けている。制度を利用して希望された方の歯科検診を実施している。	毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできる利用者は見守りで支援し、介助が必要な利用者はできない部分をサポートし、口腔内の清潔保持に努めている。歯の治療が必要な場合は家族に伝え、受診に繋げている。	

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	便秘が続くと意識消失される方がいらっしゃるのに特に気を付けている。失敗があると落ち込んだり、認めたくなく怒り出す方もいらっしゃるのに定期的にトイレ誘導、誘い方も工夫して失敗を減らすようにしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入りたいという利用者様の希望には添えていない。バイタル、体調不良にてタイミングがずれる場合もあるが入れなくても下着交換、洋服交換で清潔を保つようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、休みたいときは居室で休んでもらう。就寝前も気分が高まる事のないように、穏やかな気持ちでいられるような支援を心掛けている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入した。服薬内容一覧表は継続。薬をセットする業務はなくなったが、薬剤師からの申し送り、服薬時の確認等、情報のもれがないようにしている。	薬の管理は、管理者や看護師が行い、薬の変更があった場合は全職員に説明している。服薬支援時には、利用者の名前や飲み終えるまでの状況、空袋を複数の職員で確認している。塗薬は指定場所に氏名を記入して適切に管理している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の出来ること、出来ないことの把握に努め、生き生きと過ごせる様に、又役割として捉えていただける様に支援している。	利用者の経験や楽しみ事を把握し、掃除、食事の手伝い、洗濯干し、たたむなど、利用者が好きなことを役割を持って、楽しみながら出来るよう支援している。職員は、終わった後には感謝の言葉をかけ、やりがいや喜びに繋げている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的なドライブは継続。ウッドデッキで職員が手作りしたお弁当でピクニックをした。中距離にお住まいの家族様に丸一日ドライブに連れて行ってもらう事があった。	日常的な外出計画はなく、希望者がドライブに行く程度である。家族に依頼し、利用者が出かけることはある。今後、職員と話し合いながら、外出計画作りに取り組む予定である。	家族から外出支援の希望が多くある。遠方に出かけることより、先ず、近隣での散歩を実施したり、地域の行事に参加するなど工夫し、外出の機会になる取り組みに期待したい。

岐阜県 中津川ケアハートガーデン グループホームてがのの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使っただけの機会が作れなかった。分かる方は財布をそのまま持っていてほしい。今後の外出状況によっては使用できる機会を設けたい。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときはかけてお話をしている（携帯電話保持者）。又は家族からかかってきてお話しする。お手紙が送られてくる、こちらから絵手紙を送るといったやりとりをしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事を行ったり、玄関に季節毎のオブジェを作成したりしている。冬場は換気をしながら暖房でなるべくフロア内の温度差がないように（トイレの扉開ける。カーテンで代用）工夫している。	共用空間は広く、整理整頓され清潔である。床暖房設備もある。食事場所と利用者同士が歓談する所を区分し、どこにいても快適に過ごせるよう温湿度管理を行なっている。花を飾り、作品を掲示し利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの食堂やソファでテレビを観たり、自席で新聞を読んだり、塗り絵、パズルをされ思い思いに過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物に囲まれて、本人が安心、リラックスして過ごせるように使い慣れた物、なじみの物を持ってきていただいている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ前に矢印でトイレと書いた紙を設置したり、利用者様の動線に物を置かない、歩行器の設置場所を決める等、利用者様目線重視で工夫をしている。利用者様の居室にそれぞれの名前を書いたカードをつけて分かりやすいようにしている。		